

英語版ホームページの制作

齊藤みどり

1. はじめに

今日、日本ではインターネットが普及して、国内の多くの大学・短大がホームページ（以下HP）を開設しています。筆者が勤務する短大校でも平成11年に開設しました。所属学科の1期生が卒業研究（以下 卒研）で制作したもので、現在は当校ネットワーク委員会が運営・管理しています。

一方、所属学科では、英語とコンピュータの学習に重点を置いており、学生はこの2教科の学習に多くの時間をかけています。2年間学習した英語とコンピュータの知識を駆使した卒研をやりたいという学生の要望もあり、筆者が英語の指導にあたっていることから、担当卒研のテーマに学科英語版HP制作を取り入れました。当時当校のHPは日本語版であり、英語版がありませんでした。

平成12年に初めて3期生の卒研生と共に当科の英語版を制作し、ネットワーク委員会の審査を経て、平成13年3月に公開されました。引き続き13年に4期生の卒研生と共に更新制作を行い、同様の審査を経て、平成14年3月に更新版が公開されました。

当科の学生は、2年次の卒研に入る前、1年次での1年間のコンピュータ学習のうちHP作成は週2コマの2ヶ月半程の学習であり、本格的な制作にはまだまだ知識不足であり、筆者もまたコンピュータは専門外であることから、HP制作に当たり、当校の専門の先生方から多大なご指導とご協力を頂いております。また、公開しましたHPは、日々の変化と共に古くなって行くもので、常時更新が必要であります。せめて年に一度の更新を卒研生と共にこれからもやって行けることを願い、その制作と研究のためにも、これまでの英語版HP制作を研究ノートにすることにしました。

2. 日本全国大学・短大の英語版HP

英語版HPを制作するにあたって、その参考とするために、日本全国の大学・短大がどのくらい、また、どのような英語版HPを持っているのかを調査・研究しています。卒研生と共に1年をかけて全国大学・短大のHPを検索し、その内容を調査します。検索数はそれぞれ100件以上を目指しています。

平成13年度に検索・調査しました日本国内の大学・短大HPの結果は以下の通りです。検索は、yahoo!@JAPANの学習情報 <http://edu.yahoo.co.jp/gambare/daigaku/guide/> や大学短大のリンク集 <http://dir.yahoo.co.jp/Education/JuniorCollege/Regional/> を使って行いました。対象は国内の大学・短大のうちから興味のある学校を選びました。

表1 平成13年度全国大学・短大HP検索調査結果

検索総数244件(内訳 大学156件 短大88件)		
外国版有り	166件	47.5%
日本語版のみ	128件	52.5%
外国版内訳		
英語	116件	
中国語	3件	
韓国語	2件	

表1から、検索総数244校のうち約半数の166校の47.5%が外国語版を持っており、しかもその件数と英語版数が同じということは、その外国版が英語であり、さらにある学校は他の外国語である中国語版と韓国語版を持っているということがわかります。

日本全国の大学・短大の約半数が英語版HPを公開している現在、当校においても英語版を持つ意義は十分にあるといえます。この結果、私たちは英語版制作の必要性を実感すると共に、私たちの制作に弾みが掛かります。

さらに、この検索によって日本の大学・短大のHPを調査することで、デザインやコンテンツが研究出来、その成果を制作に反映させることが出来ます。凝っ

たデザインに注目しても、私たちの技術ではおおよびもつかないため、私たちがその制作に反映出来るのは、ページの構成や色使いや文字の使い方になります。

なんとといっても最初に見るのがトップページ(以下 トップ)ですので、トップの印象が一番強く、制作でも一番重要なページとなります。トップのコンテンツとしてどのような項目を載せているか、構成としてどのような配置にしているか、色使いとしてはどうか、暖色系か寒色系か、文字の使い方としてはフォントやサイズはどうなっているか等を研究します。

3. 制作計画

制作の第一に、どのようなHPを制作するのか、そのコンセプトを決めます。12年度は、「まず、英語版を作ろう」でした。13年度は、12年度版を検証して、もっと見やすく学生制作の独自性を出せるものにしようと「見やすさと独自性」になりました。

12年度版は、1ページに各項目の全内容をまとめて載せていたため、1ページが長く、また、ページ中程にジャンプの用意もないため、上下のスクロールバーを操作しなくてはならず、読みづらく見づらいということでした。また、コンテンツが学科の紹介のみで、学生制作の独自性が感じられないということでした。

13年度版は、学生の1名が花に興味を持っていたため、学校長始め当科の先生方から好きな花を挙げてもらい、その花の写真と花言葉を載せたことによって、一番に学生制作の独自性が出せたものとなりました。さらに、視覚的に目立つようにアイコンをたくさん使い、動きのある方が楽しみが増えるということで動画を取り入れました。これらの素材は、HP参考本付録のCD-ROMから利用しました。見やすさの追求として、ページのスタイルを大改造しました。テーブルを使い、どんなサイズのモニターでも快適に見られるように、テーブル幅を600px(ピクセル)にし、左右のスクロールバーを操作しなくてもよいようにしました。さらに見やすくするために、トップには画面を最大化した時に上下のスクロールバーを操作しなくてもよいように項目のみを載せ、各項目の内容をサブページ(以下 サブ)で紹介するようにして、内容が多いサブには中にジャンプを用意

しました。その結果、ページ数が増えました。そのため、下位のサブから中間のサブにもジャンプ出来るようにしました。日本語版から英語版へのジャンプでは、新しいウィンドウが立ち上がるようにしました。それによって、日本語版と英語版を並列して見られるようになっていきます。

第二に、コンセプトに基づいて、どのようなコンテンツを載せ、トップからどのようにサブを作成していくか、構成図を描きます。構成図はトップからサブへの枝分かれを示す樹状図となります。

12年度版はトップから2段に枝分かれした簡単な構成でした。13年度版は、見やすくするためにサブを多くしたため、トップから最下位で5段に枝分かれしたものとなりました。

新たに13年度版のコンテンツに学生のページを加えました。1年次のコンピュータの授業で学生が作る各自のHPを紹介出来るようにしました。著作権に関わるため、今回は学生番号のみのページを用意しました。次年度から公開を望む学生が日本語で作ったページを日本語版に、英語で作ったページを英語版にリンク出来るようにしました。

第三に、制作スケジュールを立てます。スケジュールは、原稿の準備・作成 → 英訳 → 写真の準備・作成 → 日本語・英語版の制作 → 公開の準備となります。卒研最終発表日を完成日として、中間発表で概要を紹介出来るようにするには、逆算して何にどれくらいの時間が必要かを割り当てて行きます。何人で制作するのかによって作業を分担します。12年度は学生3名と、13年度は2名とで制作しました。

時間が必要になるのは、英訳と制作自体です。学生は英語を学習しているとはいえ、かなりの量とこれまでに英訳したことのない表現や日本語独特の表現がたくさん出てきますので、英訳には十分な時間を見ておかななくてはなりません。さらにネイティブ・チェックを受けなければなりません。従って、英訳完成には1ヶ月から2ヶ月は見ておく必要があります。

制作も、学生は授業で自己紹介の簡単なページを1回作成するだけですので、知識も技術も未熟ですから、参考本やタグ辞典を片手に制作していかなければなりませんので、相当な時間を見ておかななくてはなりません。制作には、日英語版合わせて6ヶ月は見ておかななくてはなりません。

4. 原稿の準備と作成

コンテンツが決まりましたら、原稿の準備です。依頼が必要な場合は、依頼して回収します。新たに用意しなければならない原稿は作成します。原稿は、英語ネイティブ講師に依頼するものを除き、全て日本語で準備します。

原稿が準備できましたら、作成にかかります。12年度は、Windows 98上で、Netscape(R)Communicator 4.7のComposerを使って制作しようとしたことから、日本語原稿をComposerで書いて行きました。ところが、Composerで作成された日本語HPは、Netscape(R)Communicator 4.7のNavigatorで見ると問題はないのですが、Microsoft® Internet Explorer 5 (以下 Explorer)で見ると、いくらComposerでページのソースを修正しても、スタイルが反映されませんでした。専門の先生にお聞きしたところ、ComposerとExplorerの互換性がよくないからであることがわかりました。英語の原稿は、Microsoft(R) Word 2000 (以下 Word)で書き、それをHPにするためにhtmlに変換したのですが、Explorerで見ると、これもスタイルが反映されませんでした。ページのソースを見ると、スタイルシートが使用されていて、その知識のない私たちの力では修正することが叶いませんでしたので、Composerの使用とWordからhtmlへの変換を止めました。二度手間になりましたが、新たに日本語、英語共に原稿をHPエディターであるMicrosoft(R)メモ帳に書きました。そうして、タグでスタイルを施すことにしました。タグの知識が十分でないため使用するタグが限られ、ページのスタイルは簡単なものとなりました。

13年度は、12年度の教訓から、原稿は日本語、英語共にWindows 98上で全てメモ帳に打ち込み、タグを打ってスタイルを施すことにしました。しかし、スタイルを施すには、タグ辞典を調べながらタグを打ち込んで行かなければならず、時間がかかってしまい、思い通りのスタイルが施せないということから、Windows 98に付属のMicrosoft®FrontPage® Express(TM) (以下 Express)を使用しました。しかし、ExpressはWindow 98 Second Editionには付属されていないため、その上位バージョンであるMicrosoft®FrontPage®2002 (以下 FrontPage)を入手し、以後はFrontPageを使用しました。ところが、Explorerで見ると問題はないのですが、Navigatorで見るとスタイルが反映されませんでした。

した。ページのソースを見ると Microsoft FrontPage という <meta name> 表示がされていたため、全ての <meta> 表示を削除しましたところ、問題は解決されました。

以上のことから、原稿はエディターに書き、タグを打って行かなければならないことを認識しました。そのため、かなりのタグの知識が必要であり、その学習に十分な時間をかけなければならないことが判明しました。

さらに、専門先生から、フォルダとファイル名は英字、数字、アンダーバー、ハイフンのみで表記すること、ページ内リンクのパスは、全ての html ファイルと使用する素材や写真を 1 つのフォルダに収納するため、相対パスにすることの指導を受けました。

卒研の目的は英語版の制作ですが、原稿を日本語で準備し、メモ帳に書いて保存することによって、日本語版 HP の原稿が出来、それにタグを打てば日本語版 HP が出来上がりますので、その結果、日本語版 HP も同時に制作することになります。当校 HP 掲載の当科の紹介ページは日本語ですので、そのページを更新する意味でも、日本語版制作が有効になります。

5. 英 訳

卒研での制作ということもあり、出来るだけ学生の英語を生かすようにしています。従いまして、まず、彼らが日本語原稿を全て英訳します。時間がかかりすぎたり、どうしても英訳出来ないところは筆者が手伝います。学生の英訳を著者が添削し、全ての英訳を当科英語ネイティブ非常勤講師にネイティブ・チェックして頂きます。学生の英語を生かすために、添削は必要最小限にしています。文法の間違いを訂正し、意味不明な箇所のみを書き換え、単語の使い方の間違いを正します。その結果、学生が読んでわかる簡単な読みやすい英語になっています。

学生の英訳であることを明確にするため、13年度英語版には学生が日本語版を英訳したものであることをトップに記載しました。

6. 写真の準備と作成

どのページにどのような写真を何枚使うのかを検討し、写真の準備にかかります。借用しなければならない写真や新たに必要写真は何かを調べ、借用写真は依頼し、新たに必要写真はデジタル・カメラで撮影します。学校行事の写真は学生と当校で撮影したものを借用します。それらをスキャナーで取り込み、JPEGで保存します。ページが重くならないように、IrfanView 32 Bit for WinNT & Win9X Ver.3.00で全ての写真を20kb以下に加工します。そして、画像フォルダに収納します。

7. 日本語版の制作

12年度は、英語の苦手な人が日本語版を見るということで、文字だけのものになりました。デザインとしては壁紙を施しました。13年度は、日本語版も楽しめるように壁紙の他に写真、アイコン、動画を取り入れました。

使用した写真は画像フォルダに、アイコン・動画は素材フォルダに納め、日本語ページのhtmlファイルと共に、全てを日本語版フォルダに収納しました。

8. 英語版の制作

英語版は、世界中で見られるようにするには、どのようなコンピュータ機種にも適用するように制作しなければなりません。専門の先生から、日本語キーボードのみで使用可能な全角とJISコードを使わないようにとの指摘を受けました。それにより、全角表示は全て半角表示とし、JISコードの代わりに特殊キャラクターを使用しています。文字は、フォント数に関わらず見やすいように、全て太文字にしています。

12年度のデザインは、壁紙を使い、写真を取り込み、JISコードの代わりに特殊キャラクターを使用しました。

13年度は、写真は日本語版と同じものを載せましたが、デザインも日本語版と同じでは面白くないことから、さらに独自性を出すために日本語版とは異なる壁紙、アイコン、動画を使用しました。スタイルは日本語版と同じようにしました。

使用した写真は画像フォルダに、アイコン・動画は素材フォルダに納め、英語ページのhtmlファイルと共に、全て英語版フォルダに収納しました。

専門の先生からの指摘で、日本製のHP作成ソフト、13年度はFrontPageを使用しましたが、それらを使用するとスペースが全角になってしまうことから、秀丸エディター Ver.3.05を使用して、全角スペースを半角に置き換えました。秀丸には、メモ帳にない検索と置き換え機能があり、専門の先生がこの利用を勧めてくれました。

日本全国の大学・短大HPの検索・調査でも、日本語版のソースからFrontPageやIBMRホームページ・ビルダーTMなどの作成ソフトの使用が確認されました。日本語版の制作には日本製の作成ソフトの利用が大いに役立ちますが、英語版に使用する場合には、全角スペースに気をつけなければならないことを認識しました。

9. 公開の準備

完成しました日本語版・英語版の校正をします。校正は何度やっても誤植が見つかり、数多くやらなければなりません。

公開されるには、ネットワーク委員会の審査がありますので、校内LANに載せて1週間検討して頂きますが、そこで不具合や誤植を指摘されますので、その修正にさらに1週間程度が必要になります。

10. おわりに

13年度制作には12年度の教訓を生かすことが出来ました。また、12年度版と

いう基が存在したため、そのソースの書き直しから始めることが出来ました。それでもタグの知識が十分でないため、思い通りのデザインにするには市販の作成ソフトの力を借りなければなりません。ExplorerとNavigatorの両ブラウザで問題なく見られるようにするのにソースの修正が必要であり、それにはタグの知識が要求され、タグ辞典が無くてはならないものとなりました。12年度は専門の先生から一時期、付ききりの指導を受けましたが、その成果が13年度には現れ、付ききりの指導から分らないところのみを教えて頂くだけでよくなりました。12年度に初めて英語版を制作しましたことが筆者の大きな研究財産となっております。

13年度版は、本校のHP <http://www.shonai-cit.ac.jp/> TOP PAGEの左フレームにある各科の紹介 国際経営科より日本語版を、(English edition)より英語版がご覧頂けます。どうぞご覧下さい。ご感想・ご意見を頂けましたら幸いです。筆者のE-mailアドレスはsaito@shonai-cit.ac.jpです。これからの更新に役立て、さらによりよいHPの制作と研究を目指したいと思っております。

参考文献

- 足立祐司『HTMLデザイン辞典 第2判』(株) 翔泳社 2001年
アंक『HTMLタグ辞典 第4判』(株) 翔泳社 2001年
大場智子・齋藤祐・鈴木網枝 卒業論文『国際経営科ホームページ英語版の制作 - 機械翻訳の検証 -』2000年
茂田克格『超カンタン! Windows 98 ホームページ作成教室IE5 対応』(株) オーム社 1998年
傍島恵子『かんたん図解 ホームページ [FrontPage Express 編]』(株) 技術評論社 2000年
濱野久美・廣野佳奈子 卒業論文 "2001 Version of IBMC Home Page" 2001年
吉澤亨史『やさしくわかるホームページ入門キット』(株) 秀和システム 2000年